

今日は、北九州市立文学館が平成二十八年度に募集した第七回「あなたにいたく生まれてきた詩」コンクールの中から、北九州市八幡西区の中学二年生、共田恵梨さんの詩を紹介します。

『私わたしの存在そんざい』

北九州市立熊西中学校二年 共田恵梨

あなたは私わたしのことで怒おこった
 あなたは私わたしのことで喜よろこんだ
 あなたは私わたしのことで泣ないた
 あなたは私わたしのことで笑わらった
 あなたは私わたしのことをほめた
 あなたは私わたしのことはげました

こんなにも私わたしのことを好きでいる人ひとがいる

あなたは私わたしのことで怒おこった
 あなたは私わたしのことで喜よろこんだ
 あなたは私わたしのことでムカむかついた
 あなたは私わたしのことを笑わらった
 あなたは私わたしのことを悪わるく言いった
 あなたは私わたしのことを無視むしした

私わたしのことを好きすきな人ひと
 私わたしのことをきらいきらいな人ひと
 両方りょうほういて当あたり前まへ

私わたしのことをきらいきらいな人ひとがいるのは
 つらいつらいし
 悲かなしいけれども

私わたしのことを好きすきでいてくれる人ひともいる
 両方りょうほういて当あたり前まへ

私わたしはあなたとけんかした
 私わたしはあなたと喜よろこんだ
 私わたしはあなたと泣ないた
 私わたしはあなたと笑わらった
 私わたしはあなたとほめ合あった
 私わたしはあなたとほめ合あった
 私わたしはあなたに感謝かんしゃする

私わたしは今いまある大切たいせつなものを
 ずずっと
 大切たいせつにしていく

いかがでしたか。恵梨さんの詩には、「私わたし」と「あなた」のあいだの出来事や心の模様がいきいきと描かれていきます。泣いたり、笑ったり、怒ったり、喜んだり……。詩の中の「私わたし」は、一人一人の「あなた」とさまざまに関わっています。「私わたし」のまわりには、いろいろな「あなた」がいます。私わたしのことを好きな人、私わたしのことを嫌きらいな人、両方りょうほういて当あたり前まへですね。そんな人との関わりの中で、「私わたし」も「あなた」も生きています。恵梨さんが「ずっと大切にしていく」と言った掛け替えのないものは、「私わたし」と「あなた」のさまざまな関わりの中から生まれます。「私わたし」と「あなた」は、ぶつかるともあれば、通とおい合あうことでもあります。それは、ごく自然なことです。

みなさんは、丸まるくてきれいな石いしを、海うみや川かわで見つけたことがあり
 ますか？ 何年なんねんも何年なんねんも、ぶつかったり、ころがったりして磨みがかれた
 石いしです。まるで宝石ほうしのようですよ。

「あなた」と「私わたし」。ぶつかるともある二人ふたりが存在そんざいするからこそ、
 輝かがやいていけるんですね。
 では、また。